戦後75年 戦史の証言者たち

吉村昭が記録した戦争体験者の声

Special Exhibition: "75th Years after the World War II: Voices of War Witnesses Recorded by Akira Yoshimura"

令和2年度企画展

ムサシの建造に熱中し、ゲートル巻いたまま寝た。
終戦迄、沈んだのは知らなかった。
沈むわけがないと信じていた。

万才、万才
と叫んで
海にとび込んだ。

歴史にたずさわるのだから日本海軍としては匆々に逃げるわけにゆかぬ。最后までふみとどまる。

一家族すべての自決の方が
弾丸に当って死んだものより多い。

何発くったか分らない。
爆雷トウシヤ。
ズズー。ズズン。

家へ帰りたい。

食い物さがして
くるから…
と云って逃げた。

艦が爆発を起して
赤く染った。
真昼のように
真赤になった。

お母さんに
一眼会いたい…
と思った。

化物の
ような
ヒコーキ。

ひどくノドかわいた。
トーメイな日光にさらされた。
水のみたいな。

吉村昭記念文学館

〒116-0002 東京都荒川区荒川二丁目50番1号
(ゆいの森あらかわ内)
TEL 03-3891-4349 Fax 03-3802-4350
https://www.yoshimurabungakukan.city.arakawa.tokyo.jp/

【アクセス】都電荒川線(東京さくらトラム)荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前)下車徒歩1分
東京メトロ千代田線・京成線町屋駅下車徒歩8分
コミュニティバスさくらゆいの森あらかわ下車(土日祝のみ)
【入館料】無料 【常設展示室開館時間】9:30~20:30
【休館日】毎月第3木曜日・特別整理期間・保守点検日・年末年始ほか

※本展はWEB展示となりますので、吉村昭記念文学館での展示はありません。

吉村昭記念文学館

WEB展示 2020. 11.21(土) より常時公開

このたび吉村昭記念文学館では、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、令和2年度企画展「戦後75年 戦史の証言者たち―吉村昭が記録した戦争体験者の声―」をウェブサイトで開催する運びとなりました。この展覧会では、戦争と人間を見つめ続けてきた小説家、吉村昭の戦史小説を展望します。

18歳で終戦を迎えた吉村は、敗戦を機に一変した日本人の態度や意識に違和感を持ち続けていました。自分が見た戦争は何だったのか。戦争を通して人間の本質を探ろうと、昭和41年(1966)に「戦艦武蔵」を発表します。その後数年にわたり、数多くの戦史小説を執筆しました。生存者への取材をもとに戦史の隠れた部分を描き出し、昭和48年には、「戦艦武蔵」など一連のドキュメント作品で菊池寛賞を受賞しました。

戦後75年を迎え、戦争の記憶をどのように受け継いでいくか模索が続く今、戦争体験者の生の声を記した吉村作品を通して、戦争の一実態を知る機会となれば幸いです。

はじめに　戦争を書くということ

第1章　艦船の証言者たち

第2章　戦闘機の証言者たち

第3章　沖縄戦の証言者たち

第4章　それぞれの戦い

おわりに　読み継がれる作品

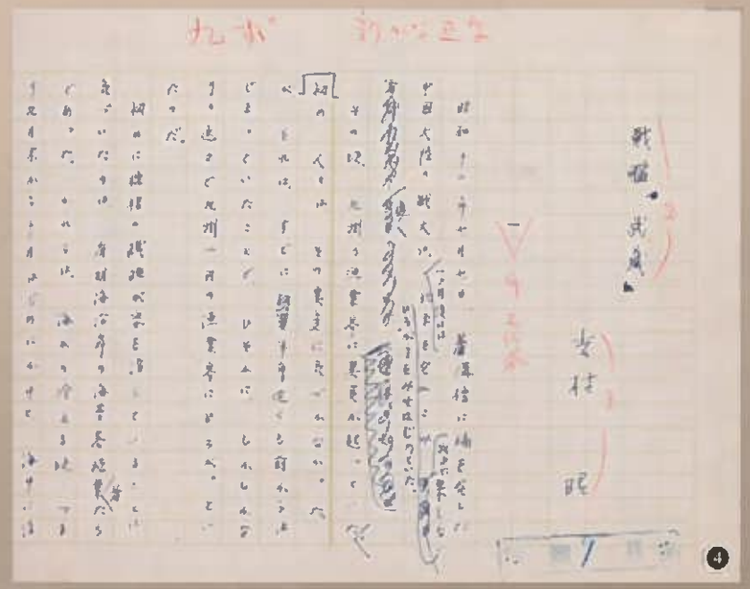
小説家　吉村昭　Akira Yoshimura

PROFILE

昭和2年(1927)～平成18年(2006)
東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本(現荒川区東日暮里六丁目)生まれ。空襲で家が焼失するまでの18年間を荒川区で過ごす。学習院大学在学中に執筆活動を開始。昭和41年に「星への旅」で太宰治賞受賞。同年、「戦艦武蔵」を発表しベストセラーとなる。「死とはなにか、生とはなにか」を主題に、人間の本質を探究し、数多くの短篇と長篇を執筆した。

【受賞歴】太宰治賞、文藝春秋読者賞、菊池寛賞、吉川英治文学賞、毎日芸術賞、読売文学賞、芸術選奨文部大臣賞、大佛次郎賞、海洋文学大賞特別賞、高野長英賞、日本芸術院賞、東京都都民文化栄誉賞、荒川区区民栄誉賞、従四位旭日中綬章

❶「殉国」の取材ノート(津村節子氏寄託資料)　少年兵から見た沖縄戦の実態を描いた「殉国」。吉村は返還前の沖縄に1か月間滞在して80人以上の関係者に取材。ノートには想像を絶する凄惨な状況が書き留められている。
❷「戦史の証言者たち」昭和56年(1981)毎日新聞社　戦艦「武蔵」の進水秘話や連合艦隊司令長官の死など、吉村が取材して得た証言を、インタビュー形式で掲載。❸「零式戦闘機」昭和43年(1968)新潮社　ゼロ戦と呼ばれた零式戦闘機の誕生から末路までを描いた作品。



❹ 自筆原稿「戦艦武蔵」(津村節子氏蔵)　不沈艦といわれた戦艦「武蔵」。厳重な機密保持の下に建造された過程を描く。

私が、戦争を背景とした小説を書くことを意図したのは、妙に晴天ばかりつづいたようなあの眩い空をもつ戦時の不可思議な時間の流れを、自ら納得したいためであった。
(「眩い空と挽歌」『白い遠景』)

昭和43年(1968)頃　津村節子氏蔵

戦争と人間に迫る 企画展、WEBで開催!

❺ 三菱重工長崎造船所にて(津村節子氏蔵)昭和43年(1968)頃
❻ 自筆原稿「陸奥爆沈」(津村節子氏寄託資料)　1121名の死者を出した戦艦「陸奥」の沈没の謎に迫った作品。
❼ 証言テープ(津村節子氏寄託資料)　メモだけでは聞かいこ。アンプが取れないとテープレコーダーを採用して証言を記録していた。
❽「吉村昭 昭和の戦争」平成27年(2015)新潮社　戦後70年の節目に刊行。代表作のほか、取材時のエピソードを綴った論稿を収録。

GOODS

「戦史の証言者たち」公式図録販売について

図録ではWEB展示に出品される全作品のカラー図版のほか、未公開の自筆原稿や取材ノートを掲載。特別寄稿は吉村司氏(吉村昭・津村節子氏長男)、森史朗氏(作家)、城久美子氏(作家)、紅野謙介氏(日本近代文学研究者)。

○金額　410円(税込)　○サイズ　A5・64頁

そのほか本展オリジナルグッズも!

<販売場所>
ゆいの森あらかわ1階総合カウンターまたは郵送販売。
詳しくは展示サイトをご確認ください。

公式図録

SPECIAL

コラボ　カフェ・ド・クリエ × 戦史の証言者たち

WEB展示の開催を記念し、(カフェ・ド・クリエ プラス ゆいの森あらかわ)でオリジナルのQRコードつき紙ナプキンを、ご注文いただいたお客様に配布しています。どうぞお楽しみください。

11月21日(土)より数量限定で配布スタート!

本展展示サイトへのアクセス

右のQRコードからアクセスするか、下記のURLからご覧いただけます。

https://www.yoshimurabungakukan.city.arakawa.tokyo.jp/senshi2020/

令和2年度企画展

戦後75年 戦史の証言者たち

吉村昭が記録した戦争体験者の声

写真提供 朝日新聞社